

エコロジーの思想

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、さまざまなタイプのエコロジー思想を概括することを通じて、生産・消費・運輸交通・廃棄などの人間活動が現在どのような問題に直面させられているか、どのように方向転換すればよいのか、などを考えていくことにしたい。そして、そうした問題を「思想の問題」として考えることは、受講生それぞれの自分の問題として考えること、「生き方」を問い直すことである。当然ながら、その解答は多様であり、一つではない。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、エコロジーとは何か
2	成績評価について、問題を自分の問題とすることについて
3	エコロジー思想の諸タイプ
4	シャロウ・エコロジーとディープ・エコロジー
5	エコロジーは技術によって実現可能か
6	ソフト・エネルギー論
7	伝統的社会や宗教の価値観を問い直す
8	「便利」で「快適」な生活は、われわれに何をもたらすのか
9	産業化社会の何が問題か
10	エコ・マネーは未来を救うか
11	エコロジカルな生き方とは何か
12	情報化社会の問題
13	スピード化社会、自動車社会の問題
14	まとめ：人類の未来と持続可能性
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

【評価方法】

基本的にはレポートによって成績を評価する。途中で課題を出すこともする。課題の評価は、レポート評価に上乗せする。出席点は、成績に考慮しない。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店1998年
尾関・亀山・武田『環境思想キーワード』青木書店2005年

【参考文献】

芸術学ゼミ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミでは、芸術学の主要分野である美術史の領域において、美術史の方法論の展開から現代アートまでを概観する。さらに各々の研究課題を設定し、調査し、解釈学や記号論といった視点から作品の特色・意義を学ぶことができる。

*芸術学とは、美術、映像、音楽、演劇、建築などを指す。

【授業の展開計画】

目標：

1. 各芸術領域の史学、特性を説明することができる。
2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析を行うことができる。
3. 研究成果を発表・評価・改善することができる。

授業の流れ：

- 1回目：自分マップ作成(Who am I ?)
- 2日目：自分マップ作成(Who am I ?)
- 3回目：自分マップ発表(Who am I ?)
- 4回目：研究課題調査・設定
- 5回目：研究課題調査・設定
- 6回目：研究課題調査・設定
- 7回目：研究課題調査・設定
- 8回目：研究課題中間報告
- 9回目：研究課題中間報告
- 10回目：研究課題に関するフィールド調査
- 11回目：研究課題に関するフィールド調査
- 12回目：研究課題に関するフィールド調査報告
- 13回目：研究課題に関するフィールド調査報告
- 14回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成
- 15回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成
- 16回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成・発表

【履修上の注意事項】

履修者は、本学が提供している芸術関連科目を既に受講している者が望ましい。

【評価方法】

1. 研究に対する取り組み、出席状況
2. 研究内容の完成度
3. 授業・態度、発表状況

【テキスト】

美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）を適宜配布

【参考文献】

西洋美術の読み方（パトリック・デ・リンク 創元社）、日本の美術（辻惟雄 東京大学出版会）自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店）など、他多数

芸術学 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割なども習得することができる。講義の到達目標は次のようになる。

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる
3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 3週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 4週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 5週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 6週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 7週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 8週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 世界の美術館紹介
- 11週目 世界の美術館紹介
- 12週目 特別講義（芸術関係者による講義）
- 13週目 北歐美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 14週目 北歐美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメ、資料を配布する

【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

芸術学Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

芸術学Ⅱでは、芸術学Ⅰで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、音楽、演劇、写真）メディアを幅広く学ぶことができる。講義の到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することができる
2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の特徴を説明することができる
3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明できる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 3週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 4週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 5週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（ロマン主義）
- 6週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義）
- 7週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義）
- 8週目 特別講義（博物館/美術館学芸員）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 11週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 12週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 13週目 現代芸術（芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の動向と潮流）
- 14週目 現代芸術（芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の動向と潮流）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

芸術学Ⅰを習得したものが望ましい

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメ、資料を配布する

【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

コミュニケーション論

担当教員 伊礼 武志

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間のすべての社会関係はコミュニケーションによって成立し、人間関係の良否はすべてコミュニケーションの善し悪しに依存するのである。本講義においては初めに、人間社会におけるコミュニケーションの役割と重要性について説き、次に、その性質と機能について述べ、最後にコミュニケーション・メディアとしての言語シボルと非言語シボルについて、その文化的背景や構造および特徴などについて学ぶ。なお、コミュニケーションはそのレベルに基づいてさまざまに類型化されるが、本講義においては特に、インターパーソナル・コミュニケーションに焦点を当てて学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	インターパーソナル・コミュニケーションの概念
2	人間のコミュニケーション
3	シンボリック相互作用論
4	コミュニケーションの類型
5	インターパーソナル・コミュニケーションのモデル
6	インターパーソナル・コミュニケーションの効果
7	インターパーソナル・コミュニケーションの効果の規定要因
8	効果的なインターパーソナル・コミュニケーションのための包括的な指針
9	インターパーソナル・コミュニケーションにおける知覚の問題
10	自己概念の形成
11	インターパーソナル・コミュニケーションにおける自己知覚
12	インターパーソナル・コミュニケーションにおける自己開示
13	言語コミュニケーション
14	非言語コミュニケーション
15	効果的なインターパーソナル・コミュニケーションの展開
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

双方通行的な授業（two-way communication）を行うので、学習意欲のある受講生を求む。

【評価方法】

授業への出席状況（70%）、授業への参加姿勢（20%）、レポート（10%）とし評価する。

【テキスト】

伊礼武志 著「インターパーソナル・コミュニケーション論」（サン印刷）

【参考文献】

D.K. バーロ 著、布留武朗、阿久津善弘 訳「コミュニケーション・プロセス」（共同出版）
伊礼武志 著「組織コミュニケーション論」（サン印刷）

心理学ゼミ

担当教員 泊 真児（前半）、前堂志乃（後半）

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

このゼミは、担当教員2名が前期と後期に分かれて担当します。前期は、自己呈示や印象形成など社会心理学的な知見や考え方を理論的・実践的に学んでいくことを通して、自らの生活や進路に役立てていくことを目指します。そのため、プレゼンテーション、ディベート、ロジカル・シンキング等のトレーニングを積極的に取り入れていきます。後期のゼミでは、主に、感覚・知覚、認知、記憶など、ひとの「こころの働き」について体験的に学んでいきます。ゼミを通して「こころの働き」を意識して考えることができるようになることが目標です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション	17	オリエンテーション
2	ワーク①自分について知る	18	ワーク①「感覚・知覚」を実感する
3	ワーク①の振り返りと理論的検討	19	ワーク①の振り返り
4	ワーク②-1自分の進路について考えてみよう	20	ワーク②「よく見る」とは？
5	ワーク②-2自分をどのようにプレゼンする？	21	ワーク②の成果発表・振り返り
6	ワーク②-1, 2の振り返りと理論的検討	22	ワーク③錯覚の不思議
7	ワーク③自分の良い所・良くない所を探そう	23	ワーク③の振り返り
8	ワーク③の振り返りと理論的検討	24	ワーク④身近な錯覚を探そう（発表）
9	ワーク④ロジカル・シンキングをしてみよう	25	ワーク⑤記憶の不思議
10	ワーク④の振り返りと理論的検討	26	ワーク⑤の振り返り
11	ワーク⑤ステレオタイプな考え方に気づこう	27	ワーク⑥脳とこころの関係
12	ワーク⑤の振り返りと理論的検討	28	ワーク⑥の振り返り
13	ワーク⑥ディベートしてみよう(1)	29	ワーク⑦映像とこころの働き
14	ワーク⑥ディベートしてみよう(2)	30	ワーク⑦の振り返り
15	ワーク⑥および授業全体の振り返り	31	ワーク⑧心の働きの不思議(全体の振り返り)
16			

【履修上の注意事項】

- ・ゼミ（演習）科目ですから、受講生は消費者という立場ではなく、話題提供者・知的生産者として能動的に授業に関与することが求められます。
- ・授業への積極的な参加（受講生個人が自主的に発言や質問等を行う）を求めます。
- ・受講者の数や雰囲気など、クラスの状況によって、ワークの内容に変更が生じることもあります。

【評価方法】

- ・成績評価は、授業への出席状況と参加態度（質問、発言の質・量なども含む）、各種のワークへの取り組み方などを、総合して行います。

【テキスト】

教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜、資料を配布します。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人が人として生きていく中で、自分や他者の心・行動を理解することは大切なことだと思われます。人が自分や他者の心・行動を理解しようとする時、そこでは誰もが心理学者になっていると言えるかもしれません。しかしながら、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なもので、科学的・客観的な理解とはかけ離れたものになりがちです。本講義では、人間科学としての心理学の立場から、知覚・学習・記憶・認知・感情等をテーマとして取り上げ、なるべく日常的な話題から人の心や行動についての理解を深めていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション；本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	心理学とは何か？ ～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～
3	人は世界をどのようにとらえるのか？ ～知覚の心理学(1)～
4	人は世界をどのようにとらえるのか？ ～知覚の心理学(2)～
5	人はどのようにして学ぶのか？ ～学習の心理学(1)～
6	人はどのようにして学ぶのか？ ～学習の心理学(2)～
7	人の記憶とはどのようなものか？ ～記憶の心理学(1)～：覚えること・思い出すこと
8	人の記憶とはどのようなものか？ ～記憶の心理学(2)～：記憶を促進・妨害する事柄
9	脳と心はどのような関係にあるのか？ ～脳と心(1)～：心の働きと脳の構造・機能
10	脳と心はどのような関係にあるのか？ ～脳と心(2)～：脳損傷や薬物の影響を中心に
11	わかるとは何か？ ～認知の心理学(1)～：理解すること
12	わかるとは何か？ ～認知の心理学(2)～：考えること
13	何が人を動かすのか？ ～気分や感情の心理学～
14	何が人を動かすのか？ ～モチベーションの心理学～
15	全講義内容のまとめ
16	学期末試験(予定)

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では、履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。欠席した場合、原則的に履修登録を取り消しますので、履修登録を希望する学生は第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・履修登録者の最終確定など、重要な情報を伝達しますので、掲示板を必ず確認するようにして下さい。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は、変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は、出席状況15%、参加態度30%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回提出させるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については、試験を実施する場合、参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通して、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理学的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。なお、心理学の学問領域としては、パーソナリティ心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学に該当する部分を学ぶこととなります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～
3	人のパーソナリティ（性格）とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～
4	人のパーソナリティ（性格）とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～
5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳幼児期の発達心理学～
6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～児童期・思春期・青年期の発達心理学～
7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～
8	自己・自分とは何か？～社会心理学(1)～
9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～
10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～
11	心の不調・トラブル～臨床心理学、臨床心理士の仕事とは？～
12	心の不調・トラブル～心の病とはどのようなものか？～
13	心の不調・トラブル～心理療法・カウンセリングとは、いったい何をするのか？～
14	心理学の知見や考え方は実生活に役立つのか？～心理学の実践と応用～
15	全講義内容のまとめ
16	学期末試験(予定)

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では、履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。欠席した場合、原則的に履修登録を取り消しますので、履修登録を希望する学生は第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・履修登録者の最終確定など、重要な情報を伝達しますので、掲示板を必ず確認するようにして下さい。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は、変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は、出席状況15%、参加態度30%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回提出させるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については、試験を実施する場合、参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

女性と文化

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

文化を通して女性のあり方を考える。文化的性差である「ジェンダー」はどのように文化の中にあるのか。女性史研究、文化人類学の視点から男の文化・女の文化を考える。

【授業の展開計画】

- 1 週目 ジェンダーとは何か 文化的性差の概念
- 2 週目 女性研究学説史① 女性の文化研究
- 3 週目 女性研究学説史② フェミニズム人類学とそのテーマ、マイノリティー研究から
- 4 週目 沖縄の女性研究
- 5 週目 女性と婚姻 婚姻システム①
- 6 週目 婚姻システム②—問われる現代の産む性・婚姻—
- 7 週目 生む性～母性・子供の発見～
- 8 週目 ケガレ・聖観 管理される身体①
- 9 週目 文化に管理される身体②「神と呼ばれた少女」ネパール・クマリ信仰
- 10 週目 文化に管理される身体③ ケガレなき女性の文化・神女
- 11 週目 文化に管理される身体④ 身体加工（アフリカほか）、人権と文化
- 12 週目 沖縄の女性—婚姻・離婚（戦後沖縄と祖先祭祀と女性問題）
- 13 週目 沖縄文化と女性—近世琉球の女性と近現代の女性の婚姻
- 14 週目 沖縄文化と女性—近代 風俗改良 風土と文化（ハジチ、琉葬から和装、金属・簪）
- 15 週目 沖縄文化と女性—文化表象（博覧会、美術、工芸）
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用する。

【参考文献】

重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

女性と歴史 I

担当教員 宮城 晴美

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

私たちは中学校・高校で世界史や日本史を学んできましたが、沖縄の歴史について教わる機会は非常に少なかったと思います。ましてや、女性の歴史を学ぶことはほとんどなかったのではないのでしょうか。

この授業は、琉球王国時代から明治の琉球処分を経て今日に至るまでの沖縄近現代史をベースに、時代によって女性たちの“主体性”がどう変化してきたか（変化させられたか）について、私たちの身近に起こる「人権問題」を含め、ジェンダーの視点で考察します。

【授業の展開計画】

新資料の入手などで、テーマが変わることもあります。

- 1 インTRODクシヨン
- 2 琉球王国の女性 —ノロ制度と御内原—
- 3 公娼制度下の辻遊廓
- 4 女子教育とジェンダーの形成 —第一波風俗改良運動—
- 5 //
- 6 「ソテツ地獄」の沖縄 —貧困・差別と闘った女性たち—
- 7 「内なる日本化」—第二波風俗改良運動—
- 8 「銃後」の女への総動員 —女子青年団、婦人団体の結成
- 9 戦争と性—日本軍「慰安婦」制度—
- 10 沖縄戦の基礎的学習—ビデオ鑑賞
- 11 「同化」政策の結末としての「集団自決」
- 12 女性の政治参加 —世界的潮流のなかで—
- 13 軍隊の構造的暴力と日米地位協定
- 14 起ち上がった女性たち
- 15 バックラッシュ時代—女性・沖縄問題をとりまく記憶の抗争
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でわからない（わかりにくい）ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパーの提出、レポート、テストなどによって評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編・近代編・戦後編）』那覇市、1998年～2001年）／外間米子監修『時代を彩った女たち』ニライ社、1996年／他随時紹介

女性と歴史Ⅱ

担当教員 新木 順子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は西洋の歴史のなかで女性達がどういう状況におかれ、どう生きたか、なぜそうであったのかについて、社会的文化的背景をも含めて見ていこう。女性たちの歩みは苦闘に満ちたものであり、その結実を現代の私達は様々に享受している。各国女性の生きた足跡を概略する事で、今日の男女を取り巻く諸問題や西洋との違いと共通点などを、改めて問いかける契機になればと思う。

【授業の展開計画】

- ・講義の概略について
- ・古代ギリシャの女性の地位、持参金付結婚
- ・キリスト教の女性像ー女性の祖エバ、イエスの母マリア、娼婦？マгдаラのマリア
- ・中世ー貴婦人と恋愛、聖女、魔女と魔女狩り
- ・産業革命とイギリス女性労働者、ヴィクトリア時代の女子教育
- ・フランス革命と女性の権利宣言
- ・ナチズム政権と「民族の母」
- ・アメリカフェミニズムの興隆
- ・国際社会の動き、女子差別撤廃条約の採択（0979年）
- ・スウェーデンにみる女性政策
- ・テストの実施あるいはレポートの説明

（注）講義の進み具合によっては、時間配分や内容などに関して若干の変更がありますのでご了承ください。

【履修上の注意事項】

私語は厳禁です。

【評価方法】

出席は加味します。

【テキスト】

レジメを配布します。

【参考文献】

講義の際に紹介します。

哲学ゼミ

担当教員 武田 一博

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「哲学ゼミ」は共通科目ですが、講義でなく、少人数で自由にディスカッションしながら、哲学の問題を考えようとする学生のために設けられています。ゼミで考える問題も、テキストを読む場合にはテキストも、受講生から自由に提案してもらいながら、進める予定です。昨年は映画を見て、それを元にディスカッションする授業も行いました。哲学という学問は、突き詰めて言うと「人間の生き方」を問うところに特徴があります。みなさんと一緒に「どう生きたらいいのか」を考えていければ、と思います。

【授業の展開計画】

共通科目の哲学ゼミは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、さまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざす少人数の演習科目です。議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。議論の具体的なテーマ、素材とする文献、映像、フィールド・ワークなども基本的には参加者と相談して決定します。第1回にオリエンテーションをおこない、具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについては第2回の授業で参加者と相談して概要を決めます。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業への参加、報告などをもとに、総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

参加者と相談して決めます。

【参考文献】

哲学 I

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

哲学は抽象的で馴染みにくい学問と思われがちですが、できるだけ身近なところに材料を取り、受講者の関心と接点をできるだけとるようにしたい。講義では、われわれの知識が正しいかが何によって決まるかを検討する認識論（なぜ幽霊は科学的探究の対象にならないのか、など）と、ものがあるとはどういうことか、同じひとつのものであることの意味は何か（なぜ子どもときのあなたと大学生になったあなたと同じ人だと言えるのか、など）を検討する存在論について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション 哲学という学の紹介。
2	レポート作成上の注意
3	哲学とは何か、何を問題としてきたか
4	哲学の諸部門 現代の観点で、哲学を部門分けしてみる
5	認識論 (1) 認識について考える。我々は何を知りうるか
6	認識論 (2) 逆に考えてみる。我々は何を知りえないか
7	認識論 (3) 近代は認識論の時代だといわれる。それはなぜか
8	認識論 (4) 科学について考えてみる。科学とは何か
9	認識論 (5) 今度は非科学についても考えてみよう
10	存在論 (1) 認識論から存在論へ。実は哲学にもはやりすたりがある
11	存在論 (2) ものが「ある」とはどういうことか考えてみる
12	存在論 (3) 「～がある」と「～である」は、どういう関係だろうか
13	存在論 (4) 「私」が「私」であるとは、どういうことだろうか
14	存在論 (5) 「私」が「私」でなくなる時について
15	まとめ 哲学という学の手触りが判ったか、確認してみよう
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外に出てもらいます。
こちらから受講生に質問することもあります。
主体的な参加を望みます。

【評価方法】

最終回にレポート提出を求める。成績は主にレポートで行う。
出席はとらないが、積極的に質問や意見を出してほしい。ただ教室にいたら良いというわけではない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

問題ごとに、必要に応じて教室で指示する。

哲学Ⅱ

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「人間の行為はある価値意識によって支えられ、生み出されているとすれば、その価値は何に由来するか」という問題を考えてみたいと思います。その際、できるだけ現実に即して具体的に問題を考えることにします。すなわち、現代の産業化社会における人間のあり方、とりわけ労働疎外、大衆社会、消費生活、自然との共生、男女の共生、情報化社会におけるコミュニケーションなどを問い直す形で考えたいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、哲学とは何か
2	成績評価、受講上の注意
3	行為とは何か
4	価値とは何か
5	産業化社会のメカニズム
6	経済的価値の由来
7	産業労働とお金
8	労働疎外
9	物象化とフェティシズム
10	消費社会の便利さと豊かさ
11	自然の価値を考える
12	共生社会とは
13	「持つ様式」と「する様式」
14	ほんとうの生きがいとは何か
15	受講生の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 哲学Ⅰを履修していない人でも受講できます。
- (2) 私語・居眠りは、教室の外に出てもらいます。
- (3) 質問を積極的に行なってください。
- (4) 問題を自分の頭で考えること。
- (5) たくさん本を読むこと。

【評価方法】

レポートの内容で基本的には成績評価します。途中で課題を出すこともあります。課題の評価は、レポートの評価に上乘せします。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

【参考文献】

フロム『生きるということ』『人間における自由』、マルクス『経済学・哲学草稿』、森岡孝治『働きすぎの時代』岩波新書、河邑厚徳『エンデの遺言』NHK出版、イリイチ『シャドウ・ワーク』岩波現代文庫

フェミニズム思想

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国でも1999年に「男女共同参画社会基本法」が制定されて以降、男女平等の実現がようやく本格的に取り組み始めましたが、残念ながら現実には、いまだに女性差別や抑圧がまだまだ横行しています。この講義では、その問題を思想の問題として、フェミニズムがどのように捉えてきたかを、歴史をひもときながら考えていきます。受講生のみなさんは、少しでも多くの本を読んで、自分の頭で考える習慣を身につけてください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、受講上の注意
2	試験・成績評価について
3	フェミニズムとは
4	フェミニズムの諸潮流
5	ウルストンクラフト『女性の権利の擁護』
6	J・S・ミル『女性の隷属』
7	エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』
8	E・ケイ『恋愛と結婚』
9	ボーボワール『第二の性』
10	ファイヤストーン『性の弁証法』
11	イリイチ『シャドウ・ワーク』『ジェンダー』
12	M・ミース『世界システムと女性』
13	日本のフェミニズム
14	現代とフェミニズム
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 私語・居眠りは教室の外に出てもらいます。
- (2) 質問を積極的に行なってください。
- (3) 問題を自分の頭で考えようとする人を希望します。
- (4) 女子学生だけでなく、男子学生も積極的に受講してください。

【評価方法】

基本的にレポートで評価します。レポート以外に、課題を出すこともあります。課題提出者はレポートに上乘せして評価します。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

【参考文献】

大越愛子『フェミニズム入門』ちくま新書1996、江原・金井『フェミニズム』新曜社1997、江原・金井(編)『フェミニズムの名著50』平凡社2002、ダイヤモンド・オレンスタイン『世界を織りなおす』学芸書林1994

文学 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文学 I」では、ドイツの「叙情詩」を中心に抗議します。ゲーテの詩が多くなります。現代の詩まで取り上げる予定です。まずは詩形式について述べ、成立した背景や民俗的、社会的背景などについて述べます。

できるかぎり、学生たちにも知っていると思われる詩歌を取り上げたい。リストやモーツァルト、特にシューベルトの作曲によってドイツリートとして親しまれているものも多い。リートを聴いて、言語は「音」であることを、ドイツ語の韻律の美しさを感じることによって知ってほしい。何よりも「文学」の楽しさが伝わることを願う。

【授業の展開計画】

厳密な「展開計画」はできていない。講義で取り上げる作品を並べることとする。

「五月の歌（祭）」（Maifest）、「野バラ」、「スマレ」、「トゥーレの王様」、「魔王」、「魔法使いの弟子」、「以上、ゲーテ。

「歓喜の歌」、「手袋」、シラー。

「ローレライ」、「てき弾兵」、以上、ハイネ。

「おやすみ」、「菩提樹」、以上、ミュラー『冬の旅』より。

「ぼくは君を愛する」、ヘロッセー。

「誠実な愛」、シェジー。

「ローマの噴水」、リルケ。

「詩のフーガ」、ツェラーン。

そのほか、「聖しこの夜」、「リリー・マルレーン」、「99個の風船」など。

【履修上の注意事項】

文学、音楽、特にクラシック音楽に興味のある学生の履修を望む。私語は厳禁。遅刻も無断欠席もしないこと。出席をとります。

【評価方法】

期末試験をする。出席も加味する。再試や追試を行わない。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

文学Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文学Ⅱ」では、ドイツの戯曲を中心に講義します。
ハインリヒ・ハイネの『ドイツ古典哲学の本質』に依拠して、ドイツ近代文学の始まりといえるマルチン・ルターについて、特に、その聖書翻訳について口述する。その後、レッシング、シラー、ゲーテの文学論と戯曲を取り上げる。できれば、ブレヒトの演劇との対比によって、現代の演劇との相違点も考えたい。
舞台上でどのように演じられているのか、思い描けるような想像力を喚起できるように願っている。

【授業の展開計画】

「授業展開計画」はできていない。講義で取り扱う作品や対象を並べることにする。
ハインリヒ・ハイネ『ドイツ古典哲学の本質』（岩波文庫）より、「宗教改革」と「ルター」。
「啓蒙主義」について。レッシング、『ラオコーン』、『賢者ナータン』。
シラー、『素朴文学と情感文学』、『マリア・スチアルト』。
ゲーテ、『ファウスト』。

【履修上の注意事項】

上記の作品や文学論は、岩波文庫や文学全集などに翻訳があるものもある。『ファウスト』は現在なお、新訳が出ている。できるかぎり、上記の作品を翻訳で読むようにしてください。また、ノートを用意して、内容を筆記すること。私語は厳禁。遅刻も無断欠席もしないこと。出席をとります。

【評価方法】

期末試験を行う予定にしている。5回以上無断欠席をしたものは受験資格はない。追試や再試も行わない。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布します。

【参考文献】

平和と文化

担当教員 吉川 由紀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

平和、戦争、沖縄、人権などをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け理解する力を蓄える。

【授業の展開計画】

講義とともに映像・画像の視聴を行う。また、現場で活動している人の報告や体験者の証言を聴く機会を数回も行う。

- 1 隣で生きている人の”歴史”に耳を傾ける
- 2 沖縄戦体験者の声を聴く、記録する
- 3 慰霊塔（慰霊碑）の声を聴く
- 4 死者の声を聴く① 戦争遺跡を通して
- 5 死者の声を聴く② 遺骨収集の現場から
- 6 「対馬丸」に学ぶ① 概要
- 7 「対馬丸」に学ぶ② 資料を読む
- 8 「対馬丸」に学ぶ③ 体験者の証言を聴く
- 9 ”ハンセン病”の歴史を糧に① 終生絶対隔離とは何か
- 10 ”ハンセン病”の歴史を糧に② 沖縄のハンセン病差別被害
- 11 ”ハンセン病”の歴史を糧に③ 差別と向き合って生きる
- 12 ”ハンセン病”の歴史を糧に④ 回復者の証言を聴く
- 13 証言を取り巻くいま
- 14 加害と被害を抱えて生きる 満州移民の歴史をどう受けつぐか
- 15 さまざまな「平和」を求めて
- 16 まとめ 実践から見えてくるもの

【履修上の注意事項】

県内外・国内外を問わず戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学し、書物（証言集なども含む）に目を通すこと。

【評価方法】

出席状況とレポートを総合して行う。レポートテーマは第1回目の講義で発表する。

【テキスト】

特に指定はしない。毎回レジュメを配布する。DVDやパワーポイントを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年
 『新版ライフヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年
 その他は、講義の中でその都度紹介する。

倫理学ゼミ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学ゼミは、みんなで議論しながら、人間のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざす少人数の演習科目です。倫理学は哲学という大きな学問の一つのジャンルで、哲学は本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、問題を多面的に(ときに根底的に)検討することをめざすものなので、この授業でも「ともに考える」ことを中核に据えたいと考えています。今年度は小浜逸郎『なぜ人を殺してはいけないのか』を共通の主たるテキストにしますが、受講者それぞれにも議論のテーマを提供してもらって、それ以外の話題も積極的に採用します。

【授業の展開計画】

テキストの以下の項目について、なにが、どのように問題となっているか、著者はどのような解答を提起しているかを、検討したうえで、受講者全員で問題や解答について批判的な検討をおこなう(授業中に小レポート作成)。必要に応じて関連の視聴覚資料も参照する。

- ・ひとは何のために生きるのか
- ・自殺は許されない行為か
- ・「私」とはなにか、「自分」とはなにか
- ・人を愛するとはどういうことか
- ・不倫は許されない行為か
- ・売春(買春)は悪か
- ・他人に迷惑をかけなければなにをやってもいいのか
- ・なぜ人を殺してはいけないのか
- ・死刑は廃止すべきか
- ・戦争責任をどう負うべきか
- ・その他、受講者が提起するテーマについての議論

学期の終わりごとに少しまとまったレポートを書いてもらう。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業への実質的なかわり(議論や質疑応答など)や大小のレポートの総合評価で成績を判断します。学期ごとの少しまとまったレポートの提出は単位取得の必要条件。欠席の扱いは学則の通り。

【テキスト】

小浜逸郎『なぜ人を殺してはいけないのか』洋泉社

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

倫理学 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義も講義担当者が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。内容としては「自己」と他者とのかかわりを中心に現代社会における人間のありかたを多面的に検討する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。公欠で出席できない場合はあらかじめメール (mkoyanagi@okiu.ac.jp) で相談すること。★

【授業の展開計画】

授業の段取り (1) 前回の小レポートのコピー配布
 (2) 全体での議論 a. 発言は発言記録票を提出させる
 b. 質疑応答などは挙手がなければ順次指名
 (3) 教員のコメント
 (4) 教科書の新しいところを読む
 (5) 小レポート(各節の要約とコメントそれぞれ50字から100字)

座席は指定。

必要に応じて、①小グループにわかれてそれぞれ議論し結論をまとめ発表し、②それぞれの結論について他のグループが検討しコメントをつけ、③発表、コメント、質疑応答というかたちでクラス全体で問題を議論するやり方も採用。

1. オリエンテーション(欠席者は登録を取り消す)

2. 哲学とは何か

3-6. 爆弾のような問い

7-10. じぶんの内とじぶんの外

11-14. じぶんに揺さぶりをかける

15. まとめのレポート

【履修上の注意事項】

授業の具体的なやり方や評価方法を説明するオリエンテーションに必ず出席すること(欠席者は登録を取り消す)。公欠で出席できない場合はあらかじめメール (mkoyanagi@okiu.ac.jp) で相談すること。

【評価方法】

あらかじめテーマを指示して授業中に作成させるまとめのレポート(持ち込み不可) 20点

テキストの重要概念に関するテスト20点

小レポート20点

発言記録票20点

グループ・ディスカッションの記録など、その他20点

【テキスト】

鷲田清一『じぶんーこの不思議な存在』講談社現代新書

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

倫理学Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義も講義担当者が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。内容としては「自己」と他者とのかかわりを中心に現代社会における人間のありかたを多面的に検討する。この授業の前半は倫理学Ⅰ（前期）の続き。後半は「私」とは何かについて受講者全員が個人発表をおこなう（発表は単位取得の必要条件）。★前期の倫理学Ⅰを履修していないければ登録できない。★

【授業の展開計画】

前半のやり方は、前期、倫理学Ⅰと同様。

後半は、受講それぞれに「私」とは何かということについてレジュメをつくって個人発表をしてもらう。レジュメはA4（40字×30行）で2枚、参考文献を1冊以上使用する。特定質問者をわりふる。

- 前半の授業の段取り
- (1) 前回の小レポートのコピー配布
 - (2) 全体での議論
 - a. 発言は発言記録票を提出させる
 - b. 質疑応答などは挙手がなければ順次指名
 - (3) 教員のコメント
 - (4) 教科書の新しいところを読む
 - (5) 小レポート(各節の要約とコメントそれぞれ50字から100字)

座席は指定。

必要に応じて、①小グループにわかれてそれぞれ議論し結論をまとめ発表し、②それぞれの結論について他のグループが検討しコメントをつけ、③発表、コメント、質疑応答というかたちでクラス全体で問題を議論するやり方も採用。

教科書は、前期、倫理学Ⅰの続き
1-4. 他者の他者であるということ、私の思考探究
5-7. 〈顔〉を差し出すということ
8-10. 死にもものとしての〈わたし〉

11-14. 個人発表—「私」とは何か

15. まとめのレポート

【履修上の注意事項】

倫理学Ⅰを履修していること(必要条件)

【評価方法】

小レポート20点／発言記録票20点
個人発表（レジュメ、発表、質疑応答）20点／発表後のレジュメの改訂10点
*個人発表は単位取得の必要条件
グループ・ディスカッション、特定質問など、その他15点
まとめのレポート15点

【テキスト】

鷲田清一『じぶん—この不思議な存在』講談社現代新書（前期、倫理学Ⅰと同じ）

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

歴史学ゼミ

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

講座内容は、沖縄の歴史の基礎・基本を学びながら、フィールドワークを重視することで身近な歴史に触れる機会を多くもつ。さらにこのことを発展させて、地域の歴史調査を実施し、地域の歴史を掘り起こす。最終的にはこれらのことをふまえて自らが興味・関心ある歴史テーマを設定して調査研究することにより、歴史の醍醐味を知ることが目的である。自らがあるいはゼミ生が共同で地域の歴史を掘り起こすことにより、地域の歴史理解と認識を深め、歴史研究の基盤を育成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	調査研究テーマの設定
2	沖縄近現代史概説①	18	調査研究テーマの発表
3	沖縄近現代史概説②	19	フィールドワーク③
4	沖縄近現代史概説③	20	調査研究
5	フィールドワーク①	21	調査研究
6	沖縄近現代史概説④	22	調査研究
7	資料館見学①	23	資料館見学②
8	地域調査の視点と方法	24	調査研究の発表
9	地域調査	25	調査研究の発表
10	地域調査	26	調査研究の発表
11	地域調査	27	調査研究の発表
12	調査のまとめ	28	フィールドワーク④
13	調査のまとめ	29	フィールドワーク⑤
14	フィールドワーク②	30	後期の反省
15	前期の反省と課題	31	
16	後期ガイダンス		

【履修上の注意事項】

- (1)ゼミナール形式の授業なので、受講生の意欲的な取り組みが必要である。
- (2)フィールドワークや資料館見学、地域調査は講義の時間以外に行うことが多い。
- (3)県内で開催される歴史講演会や見学会等への積極的参加が求められる。
- (4)抽選となった場合は、初回ゼミの時間に面談の上、決定する。
- (5)「授業の展開」は、受講生の歴史意識や人数によって若干変更することもある。

【評価方法】

- | | |
|----------------------|-----|
| ①出席状況 | 20点 |
| ②取り組みの姿勢と態度・意欲 | 20点 |
| ③調査方法や報告内容 | 30点 |
| ④課題レポート | 30点 |
| ①+②+③+④=100点満点で評価する。 | |

【テキスト】

テキストとなる文献については適宜紹介する。

【参考文献】

参考文献については適宜紹介する。

歴史学 I

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄近現代史を教材に、歴史の見方・考え方、歴史を学ぶ意義や歴史の面白さ・楽しさに触れさせ、歴史認識を確かなものにする。教材はできるだけ身近な歴史事象を取り入れ、資(史)料・図版・写真などを豊富に使ったビジュアルなプリントを作成し、使用することで歴史に興味・関心を持たせる。さらに、それぞれのテーマ講義の歴史的な意味、重要な歴史用語などを理解させる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歴史への誘い
2	歴史地図の見方
3	地名の歴史
4	ペリーと琉球
5	謝花昇の時代
6	日露戦争と徴兵
7	皇民化教育①
8	皇民化教育②
9	移民と出稼ぎの背景
10	近代の交通
11	映像に見る近代の沖縄
12	沖縄戦前夜①
13	沖縄戦前夜②
14	沖縄戦前夜③
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- ①講義で配布するプリントがテキストになり、またテスト問題になるので、欠席しないこと。
 ②登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 ②課題レポート 10点
 ③テスト 70点 (テスト問題は基本的事項や重要用語の記述式と歴史認識の小論文を併用)
 ①+②+③=100点満点で評価する

【テキスト】

講義は毎回、テキストとしてプリント(一回の講義で3~5枚)を配布する。

【参考文献】

テキストに表記、また講義のなかで適宜紹介する。

歴史学Ⅱ

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄近現代史を教材に、歴史の見方・考え方、歴史を学ぶ意義や歴史の面白さ・楽しさに触れさせ、歴史認識を確かなものにする。教材はできるだけ身近な歴史事象を取り入れ、資(史)料・図版・写真などを豊富に使ったビジュアルなプリント作成し、使用することで歴史に興味・関心を持たせる。さらに、それぞれの講義テーマの歴史的な意味、重要用語などを理解させる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歴史への誘い
2	沖縄戦①
3	沖縄戦②
4	沖縄戦③
5	沖縄戦④
6	沖縄戦⑤
7	沖縄戦⑥
8	沖縄の戦後①
9	沖縄の戦後②
10	沖縄の戦後③
11	映像で見る戦後の沖縄
12	沖縄の戦後④
13	沖縄の戦後⑤
14	沖縄の戦後⑥
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- ①講義で配布するプリントがテキストになるので、欠席しないこと。
- ②登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 - ②課題レポート 10点
 - ③テスト点 70点 (テスト問題は基本的事項や重要用語の記述式と歴史認識の小論文を併用)
- ①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

講義は毎回、テキストとしてプリント(一回の講義で3~5枚)を配布する。

【参考文献】

テキストに表記、講義のなかでも適宜紹介する。

歴史学Ⅲ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は近代ヨーロッパの政治外交史の講義である。しかし、近代のヨーロッパは、アジア・アフリカ・アメリカといった他地域との関係を通じて発展したため、近代ヨーロッパにおける政治外交史の経緯を、非ヨーロッパ地域との関係をふまえて説明する。その際、香辛料や茶といった嗜好品が与えた影響を基軸に据えながら、これらの歴史を考える。また、歴史学は「暗記もの」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「大航海時代」の背景①：中世の西ヨーロッパ世界の特徴とは何か？
3	「大航海時代」の背景②：十字軍は西ヨーロッパ世界にどんな影響を与えたか？
4	「大航海時代」の背景③：「商業の復活」によって西ヨーロッパ世界はどのように変化したか？
5	「大航海時代」の到来①：イベリア諸国はなぜ、どのように「インド」を目指したか？
6	「大航海時代」の到来②：「大航海時代」の到来はどんな変化をもたらしたか？
7	スペインからオランダへ①：16世紀初頭のスペインとオランダはどのような関係だったか？
8	スペインからオランダへ②：オランダ独立戦争はどのような戦争だったか？
9	スペインからオランダへ③：オランダ独立戦争が長期化した要因は何か？
10	スペインからオランダへ④：オランダ独立戦争によってスペインはどんな影響を受けたか？
11	オランダの繁栄①：独立戦争後、オランダはどんな国家となったか？
12	オランダの繁栄②：オランダとイングランドはなぜ対立したのか？
13	イングランドの革命とオランダ①：名誉革命以前の両国関係はどのようなものだったか？
14	イングランドの革命とオランダ②：名誉革命とその後の両国関係はどのようなものだったか？
15	まとめ：イングランドの「東洋趣味」は社会にどんな影響をもたらしたか？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義を履修するための前提条件はない（歴史学Ⅰ・Ⅱを未履修でも本講義を受講できる）。
- ② 出席は毎回必ずとる。
- ③ 毎時間ワークシートの作成を実施する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

出席状況（15%）、毎回のワークシート（25%）と期末試験（60%）による総合評価。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

歴史学Ⅳ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について、「コーヒーの拡大」を基軸に据えながら、理解することを目的とする。この場合、コーヒーの発祥地・イスラーム世界の理解が不可欠となるため、イスラーム世界におけるコーヒーの役割について説明した後、イギリス、フランス両国におけるコーヒーと近代思想、国内政治との関係を講義する。また、歴史学は「暗記もの」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じて「歴史的に考える」ことの育成も目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「コーヒー」の誕生: コーヒーの実態と起源伝説のギャップとは?
3	イスラーム世界におけるコーヒー①: 「スーフィズム」とコーヒーの関係とは?
4	イスラーム世界におけるコーヒー②: イスラーム世界でコーヒーが普及した理由は?
5	イスラーム世界におけるコーヒー③: コーヒーは何故「世界化」したのか?
6	17世紀イギリスの思想と政治①: 17世紀のイギリス社会の特徴とは?
7	17世紀イギリスの思想と政治②: ホッブズの「社会契約」の内容は?
8	17世紀イギリスの思想と政治③: ロックの「社会契約」の内容は?
9	17世紀イギリスの思想と政治④: 名誉革命後「コーヒーハウス」はどのように変化したのか?
10	フランスへのコーヒーの流入: フランスとイスラーム世界との接点は何か?
11	フランスの宮廷文化: フランス社会における宮廷の位置づけとは?
12	サロンとカフェ①: 18世紀におけるフランスの都市化は文化にどんな影響を与えたか?
13	サロンとカフェ②: カフェの存在はフランス文化の拡大にどんな影響を与えたか?
14	啓蒙思想とコーヒー①: 啓蒙思想とはどんな思潮なのか?
15	啓蒙思想とコーヒー②: 啓蒙思想家たちはフランス社会をどのように認識していたのか?
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義を履修するための前提条件はない（歴史学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを未履修でも本講義を受講できる）。
- ② 出席は毎回必ずとる。
- ③ 毎時間ワークシートの作成を実施する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

出席状況（15%）、毎回のワークシート（25%）と期末試験（60%）による総合評価。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。